



成長のカギは技術にあり!

青森産技編 1

●青森県産業技術センター
水産総合研究所長

野呂 恭成氏

グラフは1989(平成元)年から30年間の青森県の主な魚種ごとの漁獲量と県全体の漁獲金額の推移です。青森県全体の漁獲量は89年に77万トでスタートし、2013年には18万トで最低を記録しました。漁獲金額は1991年に1053億円で最高、2012年に443億円で最低となり、16年にはホタテの価格上昇により628億円を記録しました。

魚種ごとのみると、平成時代は全漁獲量の49%を占めるマイワシ38万トとスルメイカ15万トでスタートし、マイワシは8年に1方分の1以下の31トに、スルメイカは18年に8%の1.2万トまで減少しました。

漁業によって行われていま

します。現在、水産部門の研究職

す。急激に減少する水産資源と多様な漁業を抱える青森県の水産業を支え、さらに「水産改革」に対応するため、試験研究の重要性は一層高まっています。

現在、水産部門の研究職員28人中23人がプロパー職員、5人が県からの派遣職員で、プロパー職員の割合は82%です。ほとんどの県

09年4月に青森県の工業、農林、水産、食品のすべての試験研究機関は、地方独立行政法人化し、青森県産業技術センター(以下青森産技)としてスタートしました。それまで、工業

腰を据えて研究に専念でき

系や農林系の地方独立法人化はありましたが、水産系の独法化は全国で初めてのケースで、注目を浴びました。その後、5年ごとの中期計画に基づき研究を行い、今年19年4月に第3期中期計画がスタートしました。

「共同研究のお誘い」があった場合、県時代は容易に回答ができませんでした。

一方、青森産技の予算は理事長の先決で決定されることから、研究予算の受け入れ手続きは格段に速くなりました。独

法化の大きなメリットです。

独法化生かし研究専念

フットワーク軽く課題解決

期に最も多く漁獲されました。一方、ホタテは2016年が12.2万トと過去最高を記録しました。青森県の漁業生産は、大

「水産改革」により、水産資源の資源管理が重要視されることにも、新たな養殖を最大限に生かし、スピーディーに課題解決を進めたいと考えています。

刺網などの沿岸漁業、ホタテ養殖業さらに小川原湖、十三湖でのシジミを主体とした内水面漁業と、多様な

「人と予算」について紹介

青森県の漁獲量と漁獲金額の推移(属人)・県統計

